



水稻新品種

「きらみずき」情報No.1

令和6年6月13日

滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課

(東近江農業普及指導センター)

遅れずに中干し・追肥を実施しましょう！ ～茎数と葉色の確認を忘れずに～

1 管内の「きらみずき」生育状況

- ・今年、東近江管内では約81haの「きらみずき」が栽培されています。
- ・移植は5月10日～5月20日頃を中心に実施されました。植え傷みも少なく初期生育は順調です。



5月10日移植の「きらみずき」(6/11時点)

2 中干しを適期に実施しましょう！

中干しは、無効分けつの発生を抑制し、稲体の健全化を図る効果があります。強く太い茎の形成を促進するだけでなく、土壌表面が硬くなり収穫直前まで入水しやすくなります。

ほ場ごとに茎数を確認して、**目標茎数の8割を確保できた段階で中干しをしましょう！**

栽植密度（坪あたり）ごとの中干し時期の茎数の目安

	50株植え	60株植え	70株植え
株あたり茎数	20本	17本	14本

○中干しの程度は、ほ場が軽くひび割れ、足跡が付く程度です。

○環境直接支払の長期中干しを実施される方は、**10aあたり1本以上**の溝切りを原則とし、**14日間以上の中干し**を行きましょう。



中干し開始時期の株張の目安



中干しの目安

3 葉色が低下したら追肥を施用しましょう！

「きらみずき」は初期生育が比較的旺盛で分けつを確保しやすい一方で、初期生育が旺盛過ぎると穂肥時期までに栄養不足となり葉色が極端に低下する場合があります。

ほ場を確認し、葉色が低下したら追肥を施用しましょう。

○追肥の目安（基肥が側条施肥の場合）

時 期：移植から1か月以上経過し、穂肥まで1週間以上ある場合

葉 色：葉色板で3.8以下（SPAD値で35以下）に低下した場合

施肥量：有機質肥料で窒素成分 1 kg/10a

栽培方法	肥料例
①化学肥料や殺虫・殺菌剤（化学合成農薬）を使用しない栽培	滋賀こだわり基肥855 15kg/10a
	有機アグレット844 15kg/10a
②オーガニック栽培 （有機JAS認定を受けたもの）	有機アグレット727 20kg/10a
	有機アグレット674 20kg/10a
	つぶっこ（油粕） 20kg/10a

※オーガニック栽培の場合、有機JAS認証の認証機関によって使用できる資材が異なるので注意が必要です。

○基肥が全層施肥の場合は、有機質肥料で窒素成分 2 k g /10aを施用しましょう。

4 いもち病や斑点米カメムシ類の発生に注意！

「きらみずき」は殺虫・殺菌剤が使用できませんので、病害虫の発生しにくい管理に努めましょう。

- ・補植用の余剰苗は葉いもちの発生源になります。不要な**余剰苗は早急に処分**してください。
- ・畦畔の雑草が繁茂すると、カメムシ類の誘因源や増殖源になります。また、風通しが悪くなり、いもち病の発病やまん延に繋がります。**畦畔除草を行い、風通しを良く**して病害虫の発生しにくい環境を作りましょう。